

# 北海道の高等学校における **遠隔** 授業の現状と 規制・制度上の課題等について

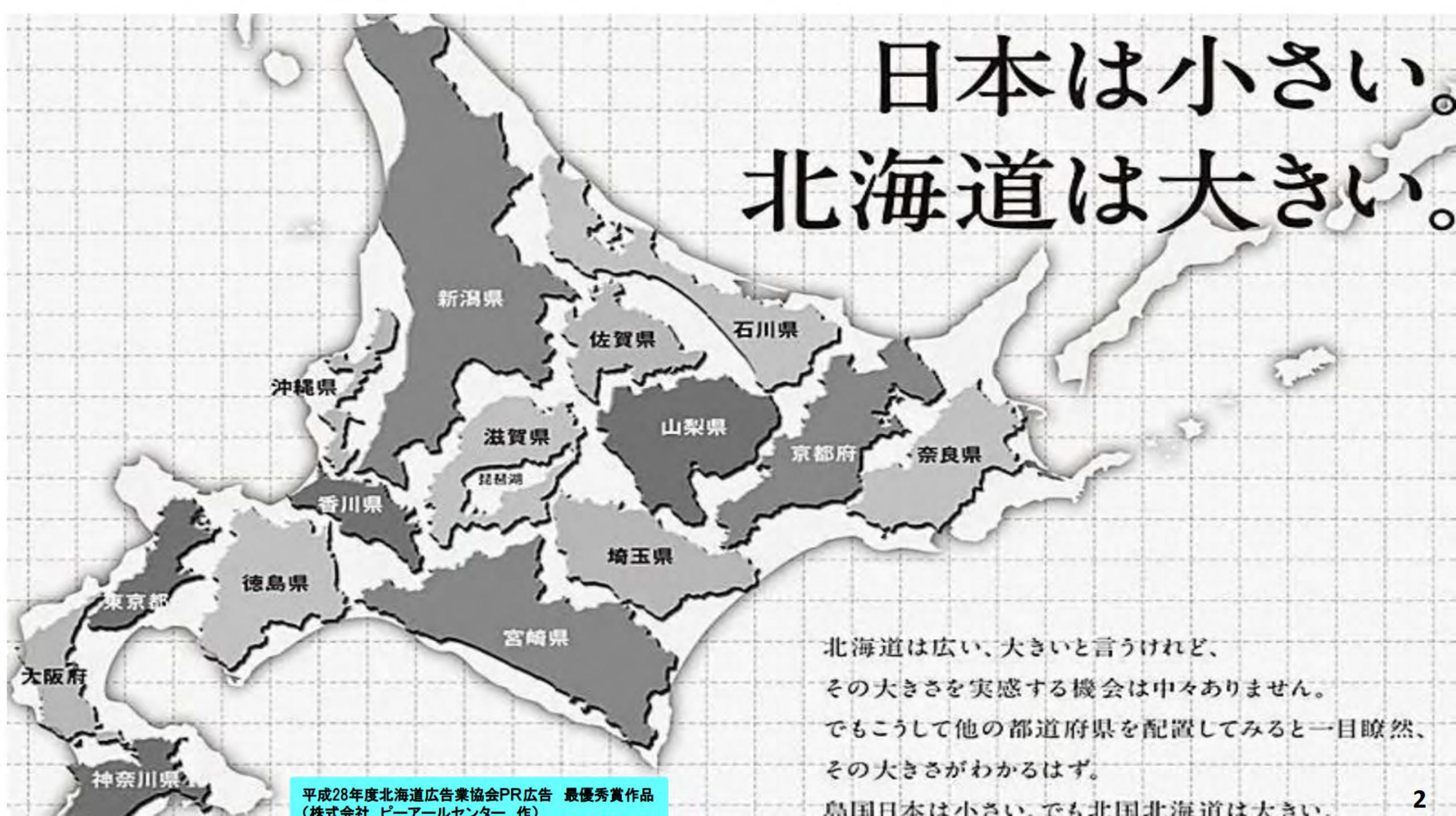


センターから全道各地  
の小規模校へ配信

日時: 2023年3月15日(水) 16:00~17:00  
オンライン開催

北海道高等学校遠隔授業配信センター長 元紺谷 尊広  
(北海道有朋高等学校長)

# 日本は小さい。 北海道は大きい。



北海道は広い、大きいと言うけれど、  
その大きさを実感する機会は中々ありません。  
でもこうして他の都道府県を配置してみると一目瞭然、  
その大きさがわかるはず。

島国日本は小さい。でも北国北海道は大きい。

**広域分散型**

**札幌—極集中**

# 高等学校の小規模校化に伴う課題

## ■教員配置数の減少

(校長・教頭・教諭・養護教諭)

<標準法>

- ・4学級規模 30人
- ・3学級規模 25人
- ・2学級規模 18人
- ・1学級規模 10人



※学級規模が減少するに従い、教員配置数が減少する。

高校の小規模化

## ■設置科目数の減少

- ・4学級規模 43科目程度
- ・3学級規模 36科目程度
- ・2学級規模 32科目程度
- ・1学級規模 28科目程度



※全日制普通科単置校の普通教科・科目の比較。

学校により相違がある。

※学校規模が縮小するに従い、選択科目が減少する。

## ■切磋琢磨する機会の減少

- ・同世代の多くの考え方に触れる機会の減少
- ・多くの教職員の指導による多様な見方や考え方を学ぶ機会の減少



## ■部活動の停滞の懸念



- ・部活動の種類が限定
- ・サッカー、野球、吹奏楽など  
多人数の活動が困難

## ■ 現 状

- ・小規模化した高校では、教員数が少なくなり、大学進学等の多様な進路希望に対応した教科・科目の開設が困難
- ・大学進学を目指す中学生が住み慣れた地域を離れ、都市部の高校へ進学

## ■ 開設目的

- ・子どもたちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことのできる、多様で質の高い教育を提供するため、生徒の興味・関心や、大学進学等の希望に対応した教科・科目を配信し、教育内容の充実を図ります。

# 北海道高等学校遠隔授業配信センター開設



2021年(令和3年)4月に、北海道有朋高等学校内に「北海道高等学校遠隔授業配信センター」を開設

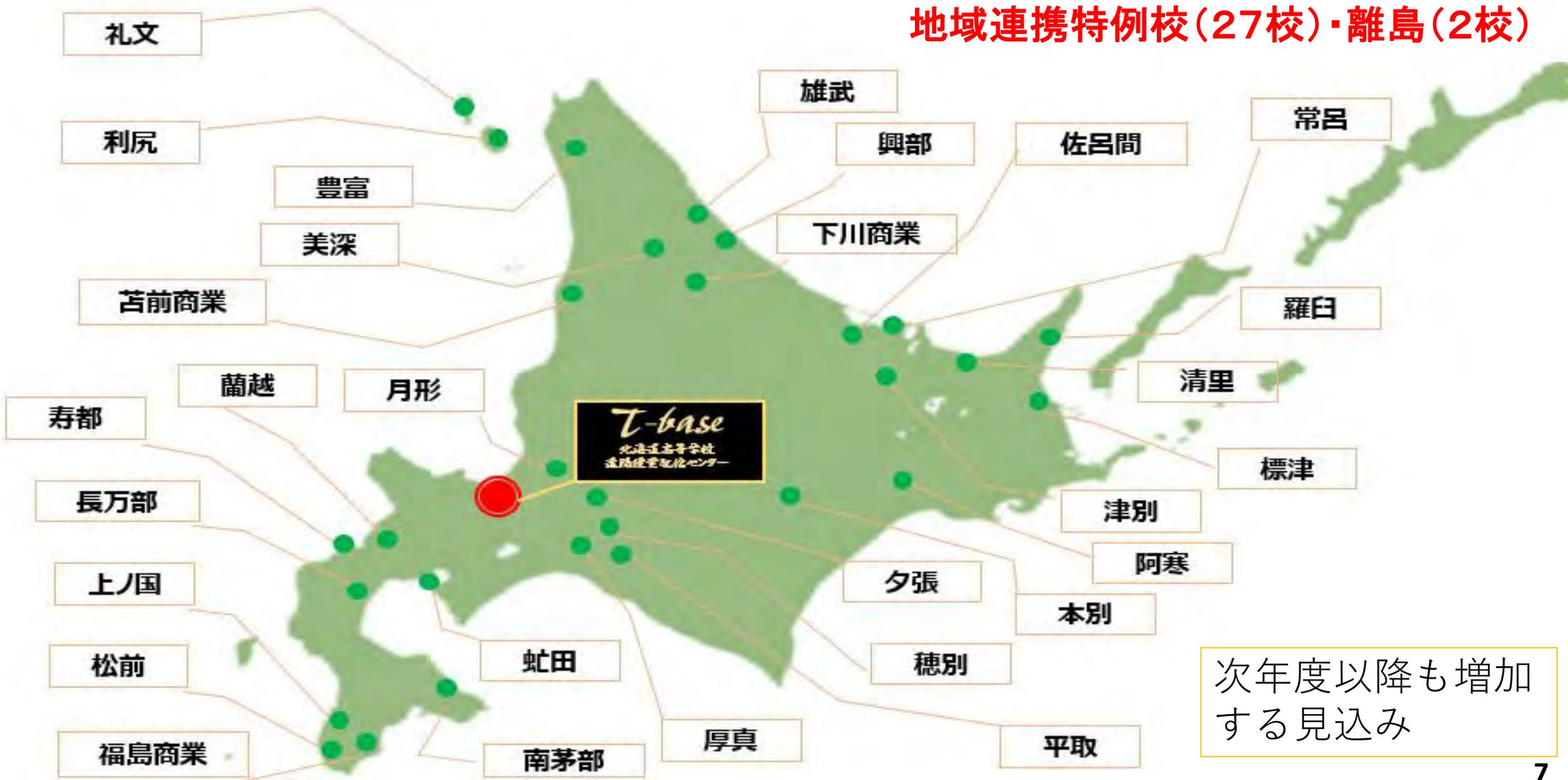
**Tele Teaching** (遠隔授業を)

**Tied Triangle** (配信センター、受信校、道教委の三者がしっかりと結びついて)

**Tonden base** (屯田から配信する拠点)

# 受信校 29校 (令和4年度)

地域連携特例校(27校)・離島(2校)



次年度以降も増加する見込み

# 北海道高等学校遠隔授業配信センター

## 配信計画

- ・令和3年度の1年生から年次進行で遠隔授業の配信を開始
- ・令和3・4年度は、希望する学校に対し、2・3年生を対象とした遠隔授業も配信
- ・令和5年度以降は全学年に遠隔授業を配信

	R3	R4	R5
配信学年	1年生	1年生	1年生
		2年生	2年生
			3年生

## 実施体制

○センター長 1名（北海道有朋高等学校長が兼務）

○業務を担当する教員 17名

・次長（教頭） 1名

配信業務の全体把握、受信校及び関係市町村教育委員会との渉外業務

・教諭 16名

国語1、数学4、英語4、地理・歴史1、公民1、理科2  
情報1、書道1、音楽1、

**令和4年度体制**

# 配信科目 (令和4年度)

国語	古典 A
地理歴史	歴史総合
	地理総合
	地理 A
	世界史 B
	日本史 B
公民	現代社会
	政治経済
数学	数学 I
	数学 II
	数学 A
	数学 B

理科	科学と人間生活
	化学基礎
	物理基礎
	地学基礎
	化学
芸術	音楽 I
	書道 I
外国語	英語コミュニケーション I
	コミュニケーション英語 II
	コミュニケーション英語 III
	英語表現 I
	英語表現 II
情報	情報 I

配信科目数 25科目

配信単位数 延べ181時間

受講生徒数 延べ685名

※2校同時実施(合同配信)により  
実質160時間を配信

# 夢は地元でつかみ取る。

## T-base

北海道高等学校遠隔授業配信センター

— 「遠隔授業」で北海道の学びをUp date —

<道立高校の遠隔授業>  
配信センター（札幌）の教員が、道内多数の受信校の生徒に対して、映像や音声を双方向でライブ配信できる通信機器を利用して行う授業

基本イメージ

～ 学習triangle ～



概要

～ 分かる・知る・繋がる ～

習熟度別授業 → 学習の本質が「分かる」

- ・大学進学を目指す少人数制指導
- ・クラウド活用による個に応じた指導

模擬試験 → 学習の定着度を「知る」

- ・「模擬試験活用サイクル」（左下参照）に沿った効果的な活用

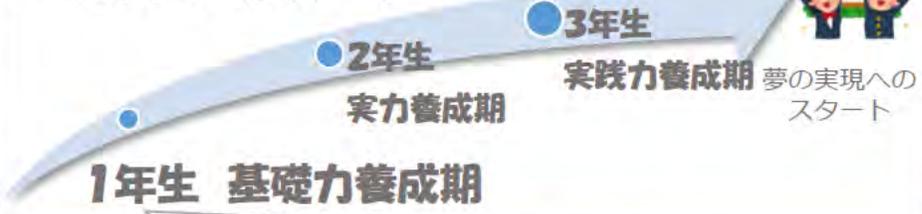
講習 → 全道の仲間達と「繋がる」

- ・長期休業中に全道へ同時配信
- ・大学入試に対応した発展的な内容

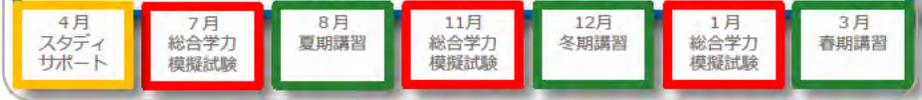
～ 模擬試験活用サイクル ～



～ スケジュールイメージ ～



習熟度別授業



# 配信システム ～接続用機器：SONY IPELA～

- ・高画質・高音質な遠隔会議システムを使用
- ・書画カメラやPCの映像も送信可能

IPELAカメラの映像

書画カメラの映像



■ T-base

IPELAカメラの映像

書画カメラの映像



■ 受信校

IPELAカメラ

書画カメラ